

キャッシュ・フロー計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
共済掛金及び交付金収入	1,974,862,298
保険金、保険手数料等収入	372,257,470
診療収入	556,780,856
受取補助金及び賦課金収入	765,463,671
その他の業務活動による収入	1,038,669,768
保険料支出	△ 297,093,544
共済金支出	△ 1,362,367,326
診療人件費、往診旅費等、診療所維持費に係る支出	△ 626,567,591
無事戻金支出	0
人件費支出（診療所人件費除く）	△ 1,018,964,954
その他の業務活動による支出	△ 511,124,150
小 計	891,916,498
利息の受取額	171,242,258
利息の支払額	0
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,063,158,756
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	1,300,000,000
定期預金の預入による支出	△ 1,900,000,000
金銭信託の終了による収入	0
金銭信託の開始による支出	0
有価証券の償還による収入	399,976,395
有価証券の売却による収入	23,605
有価証券の取得による支出	△ 200,000,000
有形固定資産の売却による収入	1,448,640
有形固定資産の取得による支出	△ 17,727,513
無形固定資産の売却による収入	0
無形固定資産の取得による支出	△ 1,149,191
その他の投資活動による収入	49,264,918
その他の投資活動による支出	△ 566,170,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 934,333,146

科 目	金 額
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入による収入	0
短期借入金返済による支出	0
長期借入金による収入	0
長期借入金返済による支出	0
リース債務の返済による支出	0
その他の財務活動による収入	0
その他の財務活動による支出	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	0
IV 資金に係る換算差額	0
V 資金増加額（又は減少額）	128,825,610
VI 資金期首残高	2,188,504,618
VII 資金期末残高	2,317,330,228

## 「重要な会計方針」の注記

平成24年度から農業共済団体会計基準（平成23年4月8日付け22経営第7209号農林水産省経営局長通知のⅡ）を適用して財務諸表等を作成しております。このため、平成23年度以前の財務諸表等とは、流動資産・固定資産及び流動負債・固定負債の区分、有価証券、リース取引、退職給付引当金、固定資産等の計上方法を変更しています。

### 1. 減価償却の会計処理方法

#### (1) 有形固定資産

定額法を採用しております。主な資産の耐用年数は以下のとおりです。

建物 17～50年、構築物 15年、機械器具 4～8年  
器具備品 1～20年、リース資産（有形） なし

#### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。該当資産の耐用年数は以下のとおりです。

ソフトウェア 2年

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法にすることとしております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のは零とすることとしております。

業務勘定の有形固定資産及び無形固定資産は、当該固定資産の取得原価から当該固定資産を取得するための借入金を控除した金額を取得事業年度に費用配分しており、減価償却費による費用配分は行っておりません。また、当該固定資産の貸借対照表計上額は、当該固定資産の取得原価から減価償却相当額（減価償却累計額と同額）を直接控除した金額を計上しております。

なお、減損処理を行った固定資産の貸借対照表計上額は、減損後の帳簿価額に基づく減価償却相当額を減損後の帳簿価額から直接控除した金額を計上することとしております。

### 2. 引当金の計上基準

#### (1) 退職給付引当金

役職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、当組合は、職員数300人未満につき、退職給付債務のうち、退職一時金に係る債務については、自己都合による退職の場合の期末要支給額によっております。

また、役員の退任慰労金については、役員退任慰労金支給規程に基づき、期末要支給額によっております。

#### (2) 貸倒引当金

未収金等の債権で、債権発生年度の翌年度から3事業年度を経過した金額を計上しております。

#### (3) 建設引当金

固定資産建設に備えるための引当金で、建設引当計画により計上しております。

#### (4) 修繕引当金

固定資産修繕に備えるための引当金で、修繕引当計画により計上しております。

#### (5) 更新引当金

器具備品等の固定資産取得に備えるための引当金で、更新引当計画により計上しております。

#### (6) 業務引当金

将来の安定的な業務運営に備えるための引当金で、業務収支予算の不足が生じた場合でも対応できるように、業務収支将来見込額の範囲で計上しております。

#### (7) 事務機械化準備金

農業保険制度の適正な運営を行う観点から、農業共済事務の効率化及び合理化を図り、共済事務機械化を計画的に推進するための財源を安定的に

確保することを目的とした準備金を計上しております。

(8) 損害評価特別準備金

大規模災害時に必要な損害評価の資金の供給を円滑にするための準備金を計上しております。

(9) 教育研修基金

農業共済団体等役員及び損害評価会委員等の教育研修を長期的かつ計画的に実施するための財源を安定的に確保するための引当金で、「岡山県農業共済教育研修基金規則」により造成総額 5 億円として計上しております。

3. 責任準備金の計上基準

農業保険法施行規則（平成 29 年農林水産省令第 63 号）第 29 条に基づき、

- ① 農作物共済勘定及び果樹共済勘定は、決算時において各共済で責任期間が翌事業年度にわたる共済の共済関係に係る手持掛金部分の金額
- ② 家畜共済勘定、園芸施設共済勘定及び任意共済勘定は、決算時において各共済で責任期間が翌事業年度にわたる共済の共済関係のうち未だ経過しない部分の手持掛金部分の金額を計上しております。

4. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

該当するものは保有していません。

(2) その他有価証券

① 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価（売却原価の算定は移動平均法により算定）により行っております。なお、その他有価証券の評価差額は、その全額を純財産の部に計上しております。

② 時価のないもの

該当するものは保有していません。

(3) 金銭信託

該当するものは保有していません。

5. たな卸資産等の評価基準及び評価方法

個別法による取得原価により計上しております。

6. リース取引の処理方法

リース料総額が 300 万円以上のファイナンス・リース取引は、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によることとしております。

リース料総額が 300 万円未満のファイナンス・リース取引は、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引（少額・短期リース取引を除きます。）のうち、平成 24 年 3 月 31 日以前に取引を行ったものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

7. キャッシュ・フロー計算書関係

(1) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手持現金及び要求払預金

(2) 資金の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

現金及び預金	4,217,330,228 円
現金及び預金のうち定期預金	1,900,000,000 円
資金期末残高	2,317,330,228 円

(3) 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リースによる資産の取得 0 円

8. 減損損失関係

該当するものはありません。

9. 金融商品関係

(1) 金融商品の状況に関する事項

当組合の余裕金は、農業保険法施行規則第 34 条に基づき、預金、国債、

地方債、特殊債、社債により運用しております。

未収債権は、未収金等債権管理要領に基づき管理しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	4,217	4,217	-
(2) 金銭信託	0	0	0
(3) 農林漁業信用基金寄託金	0	0	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	14,044	14,044	0
① 満期保有目的の債券	0	0	0
② その他有価証券	14,044	14,044	0
(5) 未収債権	98	98	-
(6) 退職給与金施設預託金	298	298	-
(7) 退職給与金施設転貸福祉貸付金	0	0	0
(8) 未払債務	(303)	(303)	(-)
(9) 短期借入金	(0)	(0)	(-)
(10) 長期借入金	(0)	(0)	(-)
(11) リース債務	(0)	(0)	(-)

(注) 負債に計上されているものは、( ) で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

- (1) 現金及び預金、(3) 農林漁業信用基金寄託金、(5) 未収債権、  
(8) 未払債務

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (2) 金銭信託、(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

- (6) 退職給与金施設預託金

退職給与金施設預託金の時価については、(公社)全国農業共済協会から提示された期末時における金額を帳簿価額としており、時価は帳簿価額と等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (7) 退職給与金施設転貸福祉貸付金

退職給与金施設転貸福祉貸付金の時価については、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

- (9) 短期借入金

短期借入金は短期間(1年以内)で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (10) 長期借入金、(11) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

外部出資(貸借対照表計上額40百万円)のうち、市場価格のある株式はありません。また、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象としていません。

10. 賃貸等不動産関係

当組合は、事務所ビル等の有効利用を図るため、事務所の一部及び宿舎を賃貸しております。これら賃貸不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価

は次のとおりであります。

(単位：百万円)

貸借対照表計上額			当期末の時価
前期末残高	当期増減額	当期末残高	
322	△41	281	281

(注1) 貸借対照表計上額は、取得価額から減価償却相当額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

(注2) 当期増減額のうち、主な増減額は次のとおりであります。

減価償却費による減少	△ 21 百万円
賃貸等不動産の増加	—
賃貸等不動産の減少	△ 20 百万円

(注3) 当期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて当組合で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

また、賃貸等不動産に関する令和2年3月期における収益及び費用は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

賃貸収益	賃貸費用	その他損益 (売却損益等)
13	29	0

#### 11. 資産除去債務関係

該当するものは保有しておりません。

#### 12. その他

令和元年5月1日に岡山県内の農業共済団体（1連合会、1組合及び9事務組合等）は組織再編し、1組合となりました。貸借対照表の明細の期首残高は、平成31年3月31日現在の旧岡山県農業共済組合連合会及び旧岡山地区

農業共済組合の残高を合算し、相殺すべき金額を相殺した金額を計上しています。

他9事務組合等の引継金については、事業勘定のみを継承し、資金を継承した日に当期の増加に含める処理を行いました。

また、他9事務組合等の固定資産については、平成31年4月1日に無償譲渡を受け、「中古資産の耐用年数に関する省令」による方法で取得価額及び残存年数を計上しました。